



ヤブコウジ 雷樨信平 画 1985.12.27 新潟県荒川町産

ヤブコウジ

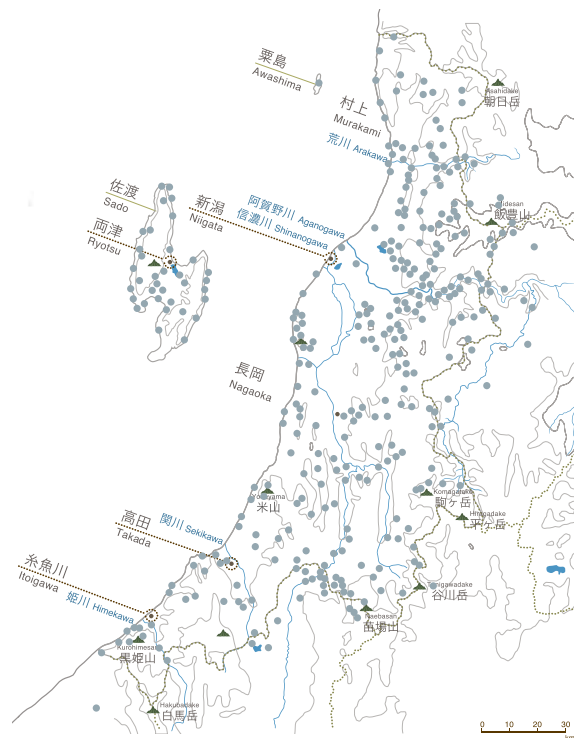
Ardisia japonica

〈ヤブコウジ科〉

冬に赤く美しい実をつける高さ10～20cmほどの常緑低木で、新潟県各地で見られる。林床に生育している控え目な姿には似つかわしくない逸話を持つ。

江戸時代後期に、変わり葉、斑入り葉などの品種が珍重され流行。新潟県を中心に人気が再燃した明治時代中期には高値を呼び、破産するまで出るというあまりの熱狂ぶりに新潟県の条例により取引が規制された。

当時高値で取引された品種は現在も残っているが、かつての騒ぎもどこ吹く風、というようすで店頭にならんでいるのを見ることがある。(林 寛子)



新潟県内の分布(新潟県植物分布図集第7集より転載)



企画展示

洋ラン展 平成22年 2/10(水) - 3/7(日)

寒さが最も厳しい2月ですが、常夏の熱帯ドームと第2温室を会場にして、大規模な「洋ラン展」を開催します。洋ランの展示は、これまでも洋ラン愛好家団体のご協力により開催してきましたが、今年度は「植物園だからできる洋ラン展」をテーマに開催します。

ラン科は、単子葉植物の中で最も進化した分類群です。多様な環境に適応しており、極めて厳しい気候の南極大陸や砂漠を除く世界各地に700属～800属、15,000種～25,000種が分布しています。その中で、熱帯を起源とする観賞価値の高いランとその交配種を特に「洋ラン」と呼んでいます。

洋ランの代表であるカトレア属、人気の高いファレノプシス属、華やかなオンシジウム属、希少価値の高い原種などを熱帯ドームのジャングルに展示するとともに、第2室では越後洋らんクラブ、柏崎カトレア会、上越愛蘭会、新潟らん友会、豊栄学びネットワーク洋ラン教室の協力を仰ぎ華やかな洋ランや小型品種などを展示、解説します。



レリオカトレヤ プアー・ポール 'ブルー・ヘブン'
(*Laeliocattleya Poor Paul 'Blue Heaven'*)

ネオスティリス ルー・スネアリー 'クリオネ'
(*Neostylis Lou Sneary 'Clione'*)



企画展示

チューリップ展 平成22年 3/10(水) - 4/11(日)

チューリップは多くの人に好まれる花です。可愛らしい花の形、鮮やかでカラフルな色、種類が豊富、などチューリップには様々な魅力があげられます。

今回は、ひよんなことからチューリップが大好きになったリップさんが登場するストーリー仕立ての展示です。リップさんはチューリップの全てを知ろうと数々の情報を手にいれ、誰もが太刀打ちできないほどのチューリップマニアとなりました。それが高じてとうとうチューリップの本場である新潟にやってくることになり、そのチューリップの生産状況に驚き大興奮します。そんなリップさんの体験を通しチューリップの栽培や生産の歴史、チューリップの魅力の一つでもある多くの品種をご紹介します、皆さんにもリップさんと同じようにチューリップの虜になっていただこうと思います。

園内ウォッチング
温室



オオビカクシダ (*Platycterium coronarium*)
ウラボシ科:「ビカク」は大鹿の角という意味。コウモリランとも呼ばれる。樹木の幹などに着生するシダ。



ヒカゲヘゴ (*Cyathea lepifera*)
ヘゴ科:温室内でいちばん背の高いシダ植物。幹の外側の部分を加工して板状にしたものをラン栽培など園芸用に利用する。



リュウビンタイ (*Angiopteris lygodiiifolia*)
リュウビンタイ科:一枚の葉が大きいもので2mを越す。



ディクソニア・フィブローサ (*Dicksonia fibrosa*)
タカワラビ科:掘り木をして鉢で栽培。

シダ植物

シダ植物は、種子植物のように維管束(いかんそく)がありますが、種子ではなく、胞子で増える植物です。シダ植物の中にはワラビやゼンマイなど山菜として親しまれているものや、マツバラシ、イワヒバなど園芸的に利用されているものもあり、世界で1万種、日本で約630種が知られています。

熱帯ドーム温室では、日本の南部から熱帯のシダ植物が植栽されています。ヘゴの仲間(*Cyathea* sp.)やリュウビンタイ(*Angiopteris lygodiiifolia*)など巨大なシダを間近で見ると、まるで恐竜時代にタイムスリップしたような感覚に襲われます。また水中庭園では、水生のシダ植物であるオオアカウキクサ(*Azolla japonica*)、サンショウモの仲間(*Salvinia* sp.)やデンジソウの仲間のヨーロッパアンクロバー (*Marsilea angustifolia*)も栽培しています。

(橋本 永)



リュウビンタイの葉の裏:葉の縁に胞子嚢がびっしりある。

園内ウォッチング
園地

冬のみどころ

冬枯れの園内、寒さをこらえて歩いてみると、さまざまな発見があります。

足元では、秋咲きの原種シクラメン、ヘデリフォリウムの花茎がとぐろを巻いています。シクラメンには結実後にこの現象がみられる種(しゅ)があり、属名シクラメン(*Cyclamen*; Cycle=らせん)の語源となったといわれています。雪が降れば、動物が行き来した足跡が見られることもあります。

3月になると、春の訪れをいち早く察知する植物が動き出します。スノードロップは、雪に白い色を分け与えたやさしい花、という伝説にふさわしい可憐な花を咲かせます。落ち葉の中、クロッカスの中でも早く花を咲かせる‘イエロー・マンモス’の黄色が映え、イヌコリヤナギの花もほころびます。

寒さ対策をしっかりと、散策してみてくださいはいかがでしょうか。(林 寛子)



イヌコリヤナギ (*Salix integra*)
ヤナギ科:池周辺



シクラメン・ヘデリフォリウム (*Cyclamen hederifolium*)
サクラソウ科:石垣緑化見本園



クロッカス‘イエロー・マンモス’
(*Crocus* ‘Yellow Mammoth’)
アヤメ科:宿根草花壇



スノードロップ (*Galanthus* sp.)
ヒガンバナ科:ハーブ園



ノウサギの足跡

NEWS 1

新潟高校放送部製作 「endangered ～絶滅危惧植物」 放送コンクールで入賞!

新潟高校放送部(顧問 横堀真弓教諭)が当園の協力により製作した絶滅危惧植物に関する作品が、第29回QK杯校内放送コンクール(NHK新潟放送局他主催)のアナウンス部門とAP(Audio Picture)部門に出品され、前者で宮本大さんが三位入賞を果たしました。

このコンクールは、県内高校放送部の新人戦といえるものです。新潟高校放送部では、テーマを決めるのにあたり、ホームページで当園の絶滅危惧植物の保全活動を知ったそうです。取材を進める中で、絶滅の危機に瀕している植物がある現状を中高生に知ってもらうことが重要だと感じ、作品にまとめたとのことでした。

植物をはじめとする生物の保全は、若い世代の理解と行動が重要です。当園では保全に関する教育、普及活動を今後も行っていきますので、学校関係のご利用をお待ちしております。
(倉重祐二)



AP部門の作品を制作した放送部の皆さん。前列左から、顧問の横堀真弓先生、副部長の工藤優衣さん、丸山和輝さん、渡辺祥矩さん。後列左から、長谷川裕隆さん、宮本大さん、部長の八子卓矢さん、大久保開さん(新潟高校放送部提供)



第29回QK杯校内放送コンクール、アナウンス部門で三位入賞し、表彰を受ける宮本大さん(新潟高校放送部提供)

NEWS 2

新コーナー

「新潟の植物」を開設

新潟県は、広く海岸に面し、また山も多く地形や気候など変化に富みます。このように多様な環境にある新潟県には数多くの植物が自生しており、日本の自生植物約7,000種のうち約3,000種が分布します。また新潟県は古くからの歴史をもつ日本を代表する園芸産地でもあり、シャクナゲや、アザレア、ボケ、チューリップ(切り花)やクロッカスなど日本一の生産量を誇ります。このように植物に恵まれた新潟を特徴づける野生植物や園芸植物をとりあげ、自然と産業の視点から紹介する「新潟の植物」のコーナーを開設しました。植物を通し生態や自然環境、また園芸植物に関わる歴史など通常では気づきにくい一面をご紹介します。
(永井 明子)

NEWS 3

渋谷区ふれあい植物センターボランティア来園



当園で活動中のボランティアスタッフと交流

11月6日、東京都にある渋谷区ふれあい植物センターのボランティアスタッフのみなさんが当園を訪れました。

開園5周年を迎える渋谷区ふれあい植物センターは渋谷駅から徒歩10分という立地にあり、温室での植物展示のほか、地域のみなさんが植物に親しむイベントや講座を主催しています。その運営には、ボランティアスタッフが不可欠であるとのこと。当園のボランティア活動を知り、今年の研修旅行を新潟に決められたそうです。当園での様子についてお話しすると、熱心な質問が寄せられ、言葉を交わす中に強い熱意と意気込みが感じられました。
(林 寛子)

NEWS 4

エントランス広場を花でいっぱい

今年も新津商工会議所のみなさんのご協力をいただき、エントランス広場にチューリップとビオラを植えつけました。動くとき汗をかくほどの天気にも恵まれた11月7日、50名を超える会員のみなさんと当園ボランティアスタッフで、落ち葉が散りつるケヤキの下に植えたのはチューリップ8品種10,000球と、ビオラ600株。来春、花いっぱいでお迎えできることと思います。（林 寛子）



植えつけのようす

春のようす



種子採取の様子 左:ラーマ氏、中央:中川氏、右:渡辺氏。佐渡の中川氏、渡辺氏の協力で3日間で100種を超える種子を採取することができた。



洗浄した種子を乾燥している様子。採取した果実はその日のうちに果肉などを取り除き種子のみにする。洗浄作業は深夜まで続いた。

NEWS 5

イギリスの プラントハンターが佐渡に

9月17日から4日間、イギリスから植物研究家のラーマ・ロペスーリベラ (Rama Lopez-Rivera) さんが佐渡島を訪れ、植物園も種子採取に同行しました。佐渡では、地元の植物に詳しい中川氏、渡辺氏の協力で、紅葉の美しいカエデの仲間や、花の美しいホオノキ、コブシなどのモクレンの仲間など3日間で100種以上の種子を採取することができました。ラーマ氏は採取した種子をイギリスの植物園や研究機関に配布すること。自分が手伝って採種した種子が、イギリスの植物園で育ち、大きくなったことを想像すると、なんだかワクワクしてきます。このような機会に恵まれたことに感謝しています。（橋本 永）



植物園のアザレアコレクション



昭和30年頃のアザレア圃場と温室

新潟の植物

アザレア

Rhododendron cv.

新潟県のアザレア生産量が全国一位ということは皆さんもご存知のことと思います。平成17年度には新潟の自慢できる有望な品目として「新潟市の食と花の銘産品」に指定されました。また、アザレアが日本へ導入されてから現在に至るまでの長い歴史の中で、本県生産者による栽培技術の確立や品種改良の実績からもアザレアはまさに新潟の植物といえるでしょう。

アザレアはツツジを親とし、ヨーロッパで室内観賞用の鉢花として改良されたものです。そのため寒さには弱く、ツツジとは異なり庭に植えて楽しむものではありませんが、置き場に気をつけ管理すれば毎年元気に育ちます。剪定も面倒なことはなく、刈り込めば立派に花をつけます。しかし、つぼみがふくらみ始めるころいつの間にか花芽を食害され、害虫に泣かされることもあります。

当園コレクションの一つであるアザレアの多くの品種を一堂に会し、初めて新年の展示として1月4日から開催します。そこでも新潟の植物「アザレア」をご覧いただけます。
(永井 明子)

新潟の天然記念物

佐渡市新穂の菩薩寺のしだれ杉

佐渡市新穂田野沢にある菩薩寺境内の入口に、高さ30m程のスギの木がそびえたっています。周囲には他に大きい樹木は無く、近くを通ればすぐにそれとわかります。樹齢は1,000年といわれ、古くから地域信仰の象徴としてあがめられてきました。このスギの枝を切ったり、葉を傷めたりすると、病気や火災があるなどの伝説が数多く伝えられています。

近づいてみると巨木特有のなんともいえない存在感があり、畏敬の念を抱いてしまいます。太い幹が3本あり、うち2本は株元でひとつの株から出ているのが確認できました。しだれ杉の名のとおり、幹から出る枝は枝垂れ、かなり高い位置から出ている枝でも、その先端は地面をこするほどでした。

佐渡市合併前、昭和47年6月8日新穂村の天然記念物指定され、合併後の平成16年3月1日に改めて佐渡市の天然記念物に指定されています。

(橋本 永)



菩薩寺のしだれ杉
指定されている杉は3本あり、それぞれの幹周は約5m、高さは約28m。

友の会通信

今年の秋は、秋の植物園まつりへの出店、秋の植物観察会、きのこ観察会、植物園第3温室住宅内展示『季節の植物をたずねて～植物観察会レポート～』の展示と活動が目白押しでした。

どれも無事終了し、楽しい活動になったと思います。今回は秋の植物観察について報告します。



きのこ観察会の様子



第3温室の展示の様子

秋の植物観察会

9月24日は天候に恵まれ、心地よい観察会となりました。今回は村上市へむかい、グリーンパークあらかわ総合運動公園、セナミスミレの自生地、臥牛山を散策しました。昼食はサーモンハウスでの薬膳料理を堪能しました。グリーンパークあらかわ総合運動公園、セナミスミレの自生地では、直接、植栽や保全に携わっている方からのお話も聞け、大変有意義でした。臥牛山は、石沢会長に解説していただきながら、秋の花や実を観察しました。以下は参加者のレポートの一部です。



セナミスミレの自生地を訪ねて

- セナミスミレは地元の方々の熱心な保全、保護のもと大切に育てられており、群生も見ることができました。保護テープの青色が海風にパタパタとなびき頼もしい限り。
- 臥牛山の散策ではキバナアサギリ、オヤリハグマ、オクモジハグマ、ヤクシソウが花を咲かせ、ミツバウツギ、チャボガヤ、ノササゲ、エゾツリバナ、サワシバ、ガマズミ等が実を持ち、セントウソウ、シオデ等も見られました。1,000種程度の植物を抱えるお山だとか…。春の観察会も良いのでは。楽しい観察会でした。
- 北限の植物を種から育てて植栽した公園は特徴があって成長するのが楽しみです。セナミスミレも地元の人達が守り育てている素晴らしいことだと思いました。秋葉丘陵の植物ももっと関心を持って育むことに取り組みたいものです。薬膳料理はイメージと違って出てくる物がたっぷり、日常の食事がサプリメントにまさると感じました。臥牛山ではめずらしい植物が見られてとても楽しかったです。



セナミスミレ
地元の方々の熱心な保全、保護のもと大切に育てられていた



臥牛山山頂にて



グリーンパークあらかわにて
植栽されている樹木は全て種子から育てたもの

新潟県立植物園 友の会会員募集

友の会会員を随時募集しています。興味のある方は、友の会事務局（新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465）までお問い合わせ下さい。

友の会ブログもご覧下さい

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで、携帯電話からも投稿できます。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員〈わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています〉敬称略

- 齋藤圭子 ●藤田秀雄 ●小林測量株式会社新発田支店 ●株式会社アート ●株式会社原常樹園
- 有限会社丹環境計画 ●株式会社アート環境設計

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 1月4日(月)～2月7日(日)
「ニューイヤー・フラワーショー アザレア2010」
- 2月10日(水)～3月7日(日) 「洋ラン展」
- 3月10日(水)～4月11日(日) 「チューリップ展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 1月4日(月)～1月11日(月・祝) 「正月飾り」
- 1月13日(水)～1月31日(日) 「ひょうたん展」
出展:西島シーニアクラブ大和会
- 2月2日(火)～2月21日(日) 「chikuchikuな旅へようこそ」
出展:伊藤真理子ハワイアンキルト教室
- 2月23日(火)～3月7日(日) 「クリスマスローズ展」
協力:新潟県花卉出荷組合クリスマスローズ部会
- 3月10日(水)～3月28日(日) 「野の花の水彩画展」
出展:外山康雄
- 3月30日(火)～4月18日(日) 「アッセンデルフトフローラルアート作品展」
出展:桂田アッセンデルフトフローラルアート目黒教室

観賞温室第3室 特別展示

- 3月10日(水)～3月14日(日) 「花の新品種inにいがた」
主催:食と花の世界フォーラム組織委員会、新潟県立植物園

●わくわく植物探検ツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!ツアーに参加された方には記念写真プレゼントもあります。

①10:40～ ②14:40～

(土・日・祝日は13:40からも実施)

当日温室発券カウンターにて受付・定員制

また、ご自分のペースで解説付きの見学をお楽しみになりたい方には、携帯音楽プレーヤーiPodを使った展示解説「seedPod(シードポッド)」もご用意しています。温室の入館券売場でプレーヤーを貸し出ししていますので、ぜひ一度お試しください。(無料・身分証明書必要)

●花と緑の相談コーナー

専門相談員の片山芳宣先生がわかりやすくお答えします。

- 相談受付日:毎週水曜、日曜 ●ご相談は直接相談コーナーへ。
- 電話でも受け付けています。 専用電話:0250-24-6437

教室

花と緑の教室

会場(または集合場所):花と緑の情報センター
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 1月31日(日) 10:00～11:30
「アザレア博士とめぐるフラワーショー」
講師:倉重 祐二(植物園副園長・趣味の園芸講師)
定員:10名 参加費:無料(別途入館料が必要です)
- 2月7日(日) 10:00～11:30
「冬の樹木観察ツアー」
講師:橋本 永(植物園職員)
定員:親子10組 参加費:無料
- 2月14日(日) 10:00～11:30
「ボトルフラワー」
講師:櫛舎道子(Plink&Plonk)
定員:15名 参加費:600円
- 2月21日(日) 10:00～11:30
「洋ランの管理」
講師:細川傳一郎(細川洋蘭農園)
定員:30名 参加費:無料
- 2月28日(日) 10:00～11:30
「クリスマスローズの管理」
講師:細川正明(細川豊生園)
定員:30名 参加費:無料
- 3月7日(日) 10:00～11:30
「雑草観察会」
講師:田中 良明(植物園職員・樹木医)
定員:15名 参加費:無料

図書のご案内

※温室入館券売場にて販売しています。



「里山の植物」
2,000円

新津丘陵に植生する植物の大図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力を再発見。



「ようこそ緑の夢王国新潟県立植物園」
1,200円

新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しむきっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

●観賞温室利用案内

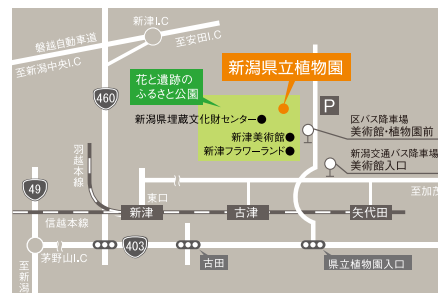
開館 / 9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料 / 大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

1	2	3
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ ・ ・ ① ②	・ ① 2 3 4 5 6	・ 1 2 3 4 5 6
③ 4 5 6 7 8 9	7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13	7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13
10 11 ⑫ 13 14 15 16	14 15 16 17 18 19 20	14 15 16 17 18 19 20
17 18 19 20 21 22 23	21 22 23 24 25 26 27	21 22 23 24 25 26 27
% 25 26 27 28 29 30	28	28 29 30 31 . . .

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 / 磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路 / (新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J R / 信越線古津駅から徒歩約20分
バス / 区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター



登録範囲は、事務局、鳥屋野湯スポーツ公園事務所(園地・スタジアム)、紫雲寺記念公園事務所、植物園です。

